

おながわ シーパルピア女川・地元市場ハマテラス (女川みらい創造株式会社)

宮城県牡鹿郡女川町

民間主導の商業エリア整備 町民から観光客までニーズに対応



取組の背景

本格復興に向け、民間で 持続可能なまちづくりを

東日本大震災の被害からのまちの本格復興をけん引するため、町民の日常生活の基盤を支え、来街者や観光客のニーズに対応できる商業機能の充実は必須であった。また、女川町まちなか再生計画では、仮設店舗で営業していた被災事業者の事業再建場所の確保、創業・新規出店誘致による不足業種の充足と新しい魅力づくり等に取組む際に、民間活力を活かして展開することで持続可能なまちづくりを行う方針であった。

2015年3月にJR女川駅が再開し、2015年、2016年にはテナント型商業施設が開業。これらを契機に、女川駅前商業エリアでは、公民連携によりハード・ソフト両面で事業を推進し、回遊動線の軸である「レンガみち」の積極的な活用と、まちを活用して様々な活動を行う「活動人口」の創出を図っている。復興需要や各メディアの高い話題性による集客効果の追い風もあり、より一層関係者が連携し、魅力づくりに取組もうとしていた。



JR女川駅周辺の様子



レンガみちに集う人々

取組の内容

店舗の流動性を高め 持続可能な商店街を形成

女川町は住宅を高台に整備し、JR女川駅を中心に行政、医療、福祉、交通、教育、商業の拠点を集約。コンパクトな市街地の形成を図っている。公共施設や商業施設を面的に配置することで人の流れを集約し、まちの活力と地域経済を維持する計画だ。

町民の生活を支え、来街者や観光客のニーズにも対応した商業施設「シーパルピア女川」、「女川町まちなか交流館」が2015年12月に開業し、式典「おながわ復

興まちびらき2015冬～女川駅前商業エリア開業～」を開催。翌年12月には「地元市場ハマテラス」も開業し、本格的な復興に向け大きな一歩を踏み出した。

女川駅前商業エリア整備は公民連携により計画した。民間主導のエリアマネジメントを実現するため、まちの中心軸である歩行者専用道路(レンガみち)沿いに町有地を集約配置し、テナント型商業施設を整備した。シャッター通りを作らないよう、土地と建物の所有と利用を分離することで店舗の入れ替え等の流動性を確保し、被災事業者の再建とともに民間独自の魅力的な店舗誘致を行うことで、持続可能な商店街形成を実現している。

さらなる活性化を図るため、道路空間等を活用した音楽ライブやイベントの試行も重ねた。民間による空間活用と連携体制の必要性を検討し、2016年6月には町内8団体で構成する「おながわレンガみち交流連携協議会」を設立。同年4月に創設された「道路協力団体制度」に着目し調整を進め、翌2017年5月に女川みらい創造株式会社が道路協力団体の指定を受け、民間アイデアを活かした話題性の高い事業をテナント入居者及び町内関係者等とともに展開している。コンパクトなまちづくりと民間主導の公民連携による事業展開は、全国から注目され、他自治体、大学、企業等が視察に訪れている。



式典「おながわ復興まちびらき2015冬」の様子 和太鼓のライブの様子

取組の成果

テナント入居率100% GWには多数の人が訪れる

シーパルピア女川・地元市場ハマテラス開業以降、テナントの入居率は100%を維持し、現在も計37店舗が営業をしている(2018年11月末時点)。

積極的な事業展開により、シーパルピア女川・地元

市場ハマテラス等でイベントや行事等を精力的に実施している。2016年度には54件、2017年度には78件のイベントを実施。その結果、町内外から多くの人々が足を運んだ。人口約7千人という町の規模に対し、2018年のゴールデンウィーク(4月28日～5月6日)の来街者は推計69,000人にのぼる。

その他にも、公民連携による女川駅前商業エリア整備が評価され、2018年に都市景観大賞 国土交通大臣賞、アジア都市景観賞、グッドデザイン賞等を受賞している。



ファッションショーイベントを楽しむ人々



賑わう商業施設内の様子

実施体制

シーパルピア女川・地元市場ハマテラスを運営する

女川みらい創造(株)の株主は、女川町商工会、女川町、女川魚市場買受人協同組合、女川町観光協会、復興まちづくり女川合同会社と主要団体で構成しており、経営者・従業員ともに、まちづくりをけん引するキーマンとなっている。

また、テナント型商業施設を含めた商業エリア一体の連携強化のため、テナント会、おながわレンガみち交流連携協議会、女川産業区等を組織し、定例会等での情報共有や課題解決、新規事業展開等を実施している。

更に、仙台市泉区の大型ショッピング施設「泉パークタウン・タピオ」と2016年1月に姉妹施設協定を締結。相互の情報発信や定期的な交流活動、経営に関するアドバイス等をやりとりしている。



姉妹施設「泉パークタウン・タピオ」との交流の様子(調印式)

キーパーソンからのコメント

海が見える公園にある街＝シーパルピア女川

東日本大震災で町の中心部の約8割を失った女川町は、効率的な町の再生を図りながら、将来的な暮らしの視点から、コンパクトシティを目指したまちづくりを進めてきました。嵩上げた中心部から駅を起点に200mの長さで2%の勾配で下るプロムナード(レンガみち)を基軸にして、その両側に賑わいの機能を集めるとともに真っ直ぐに海を望める自然な空間を創りだしています。

「シーパルピア女川」は、そのレンガみちの両側に配置され、海を望むゆったりとした空間を構成し、公園を歩くような癒しの時間を過ごせます。また、ゾーニングされた店舗は町民使いも含めたミニスーパー、すべての来街者が楽しめる「もの作り」が体験できるタイル工房や石鹸工房などもあります。もちろん地元の海鮮を扱う飲食店などで最高のグルメも楽しめることは間違いなし。



女川みらい創造株式会社
代表取締役専務
近江 弘一

商店街の概要

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県女川町は、JR女川駅周辺に各機能を集約配置しコンパクトな市街地を形成している。JR女川駅から海側に伸びる歩行者専用町道(レンガみち)沿いに、まちづくり会社である女川みらい創造(株)が、まちなか再生計画に基づくテナント型商業施設を2軒、整備運営している。2015年12月開業の「シーパルピア女川」はミニスーパーや小売店、飲食店等が出店。2016年12月開業の「地元市場ハマテラス」は港町ならではの鮮魚や水産加工品等、手作りオーガニック石けん等海をコンセプトにした店舗構成であり、公民連携による商業エリアの形成は、復興まちづくりのモデルとして全国から注目を浴びている。

- 所在地 宮城県牡鹿郡女川町
- 人口 約7千人(女川町)
- 電話／ 0225-24-8118
- FAX／ 0225-24-8228

- URL <http://onagawa-miai.jp>
- 会員数 37名
- 店舗数 37店舗(小売業13店、飲食業15店、サービス業3店、その他6店)

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 国内観光客、家族連れ(親子)／50歳代、60歳代